

なし「幸水」の大果生産に有効な夏季せん定の時期と程度						
〔要約〕なし「幸水」の場合、6月下旬に発育枝の <u>10%</u> をかきとる程度の <u>夏季せん定</u> を行うことは <u>果実肥大</u> に有効であり、 <u>50%以上の過度の夏季せん定</u> は逆に果実肥大を抑える。						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及
平成5年度長崎県果樹試験場業務報告						

〔背景・ねらい〕

なしの生育期に当たる6～7月が高温多雨条件となる九州北部では、発育枝の伸長が旺盛で過繁茂状態となりやすく、棚下の明るさを保つためには夏季せん定が不可欠である。そこで、夏季せん定の時期と程度が果実の肥大と品質に対する影響を調査し、適切なせん定程度を検討した。

〔成果の内容・特徴〕

- ①夏季せん定を行うことによって大果の割合が高くなる。特に6月20日に夏季せん定を行うと2S以下の果実が少なく、4L以上の果実の割合が高くなる（図1）。
- ②発育枝の10%をかきとる夏季せん定を実施することによって、2L、3L及び4L以上の果実割合が高くなり、平均果実重も重くなる。また、50%及び80%の発育枝を夏季せん定するとS以下の果実の割合が多くなる（表1）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①夏季せん定は樹勢を抑えるので、樹勢が弱い場合は夏季せん定は行わない。
- ②せん定は主枝の基部（主枝長の2分の1）を中心に行う。

[具体的データ]

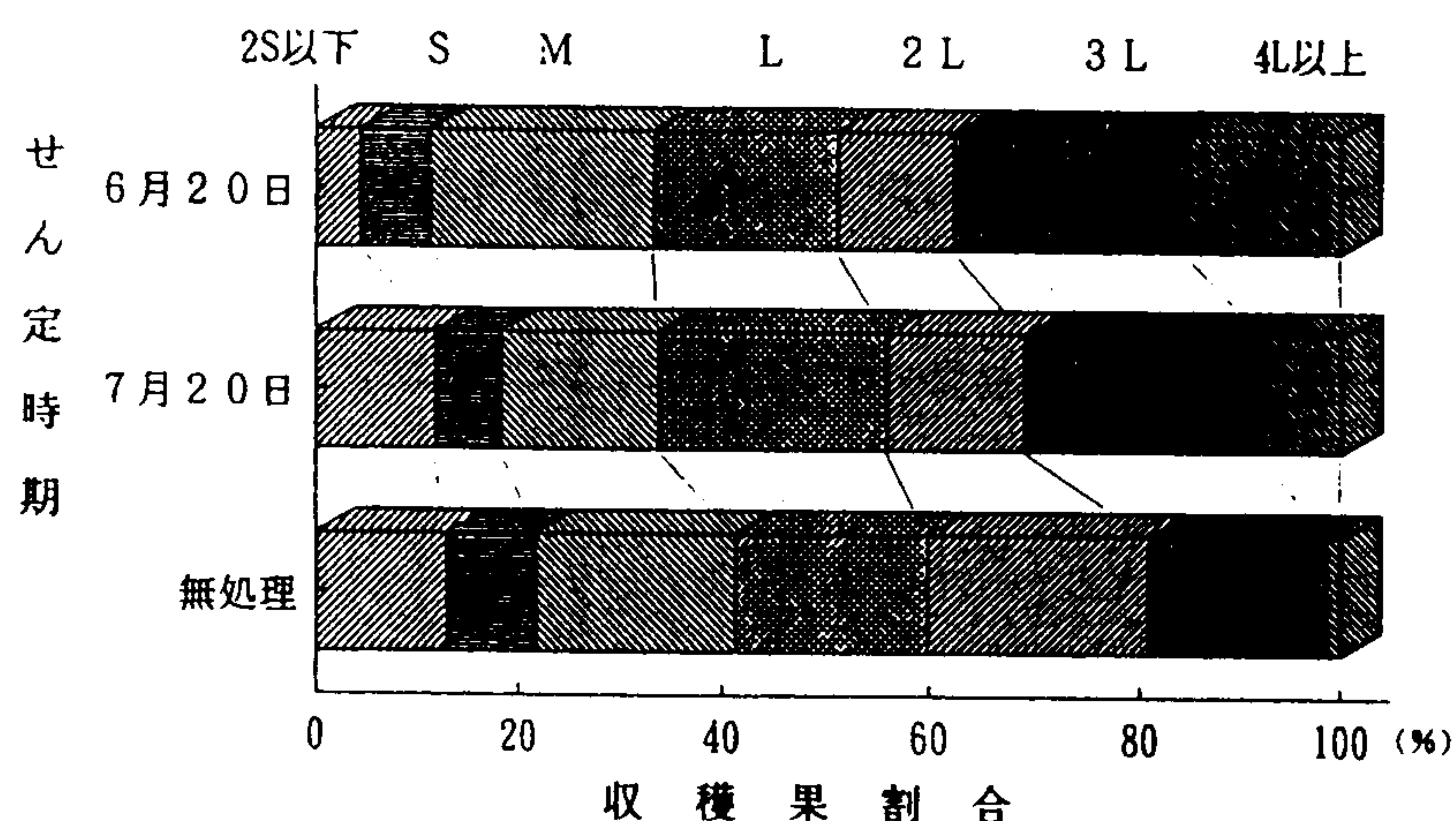


図1 夏季せん定の時期と収穫果の割合

表1 夏季せん定の程度と果実の階級別割合

せん定の程度	4 L 以上 (%)	3 L (%)	2 L (%)	L (%)	M (%)	S 以下 (%)	平均 果実重 (g)
10%	11.0	17.1	19.5	18.3	20.7	13.4	308.0
30%	5.7	6.4	14.3	25.7	26.4	21.4	281.0
50%	5.3	6.6	10.5	23.7	22.4	31.6	272.1
80%	1.5	4.4	4.4	11.8	23.5	54.4	242.0
無処理	5.9	13.7	17.6	17.6	11.8	33.3	286.0

[その他]

研究課題名：ナシの品質関連要因の解明と向上法

予算区分：県単

研究期間：平成5年（平成4～8年）

研究担当者：林田誠剛，森田 昭

既発表論文等：なし

残された問題点：樹勢に応じた夏季せん定の程度を明らかにする必要がある。